

同窓会報

第 2 号
58. 9. 1

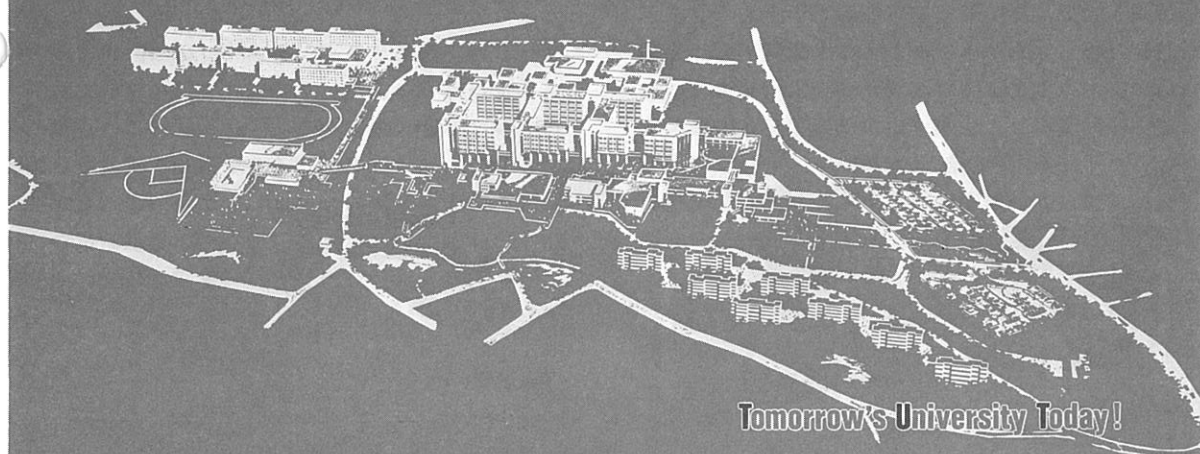
豊橋技術科学大学同窓会

**GRADUATE STUDY
OPPORTUNITIES
OPEN AT NEW**

**Toyohashi
University of
Technology**

Office of International
Exchange Activities
Tempaku-cho, Toyohashi, 440 JAPAN

TUT



Tomorrow's University Today!

GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING

1. ENERGY ENGINEERING
2. PRODUCTION SYSTEMS

Contact: Office of International Exchange Activities of TUT

同窓会からのお知らせ

同窓会会長 鈴木寛太郎

同窓会会員の皆様お元気で過ごしのことと思います。お仕事の方でしょうか。同窓会では卒業生・修了生の皆様相互間のつながりを密に、ますます発展するよう頑張って参りたいと思いますので、皆様の御協力をよろしくお願い致します。

※ ①総会開催のお知らせ

昭和58年10月9日⑩13時、学内にて。当日は技科大祭(10月9日⑩・10日⑩)が行なわれますので多数御参加下さい。なお同封のハガキに総会の出欠を必ず記入し、9月30日までにお知らせ下さい。

②新卒者の名簿の発行について

新卒者の現住所について、現在まだ研修期間の方々が多数いますので今年度からは新会員の名簿については次年度に発行いたしますのでよろしくお願い致します。

③第3回同窓会会報の原稿の募集

来年度発行の会報に記載のため、一人400字づつ原稿用紙2枚程度で近況報告をお願いします。

④同窓会会報の名称の募集

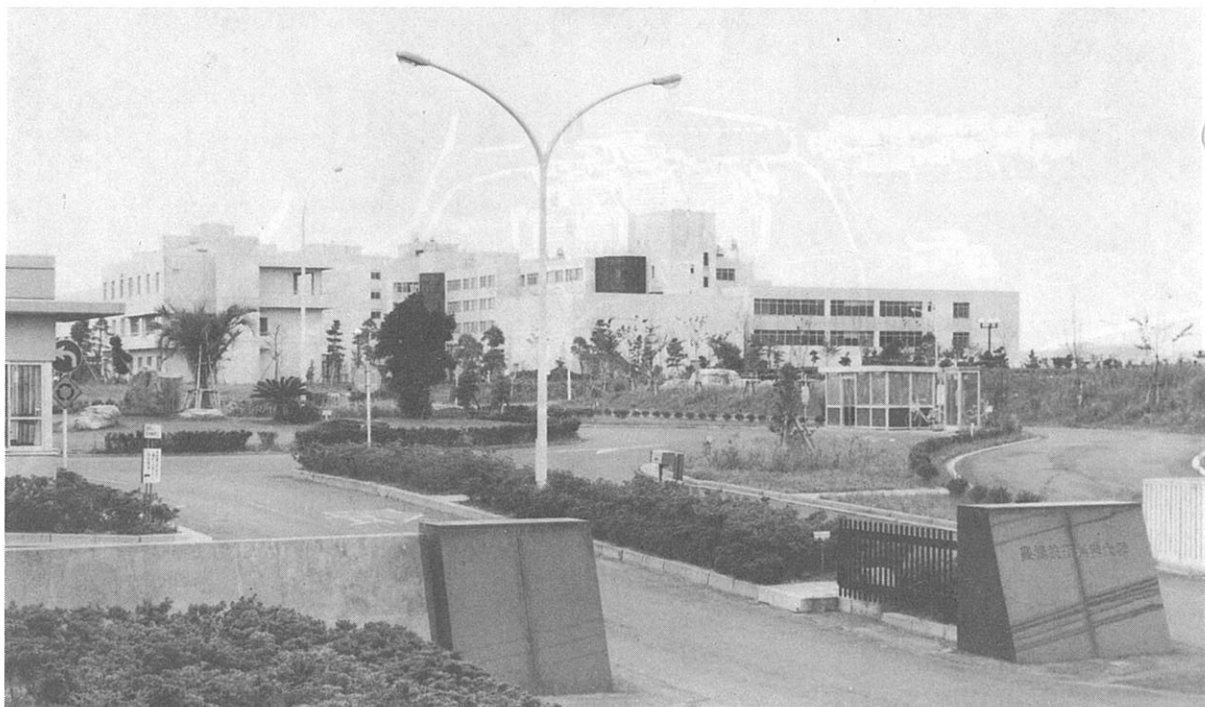
かねてから募集中でした会報名をそろそろ決めたいと思います。そこで皆様の奇抜なアイデア名をお待ちしております。

⑤住所変更の連絡のお願い

転勤など多いサラリーマンの皆様、同窓会において会員相互の連絡のため住所変更のつど同窓会あてに御連絡下さい。

(③④⑤の締め切りは昭和59年3月31日)

上記のことについて、御意見・御希望及び連絡のある方は、豊橋技術科学大学同窓会・鈴木秀智あてにお願い致します(0532-47-0111内線540)。



がんばってます

— 同窓生各地のたより —

「雑 感」

昭和58年 エネルギー工学課程卒業

浅沼幹人

大学を卒業し社会人となって早くも1ヵ月です。しかし、この1ヵ月間に行ったことは、教育と現場実習のみであり、現在は組み付けラインでの実習中です。大学時代のアルバイトでもラインの経験はなかったため、初めの2・3日は立ちづめのため足・腰が痛く、またラインのスピードについていくのが精一杯でしたが、現在は他の事を考えながら作業を行なう余裕が出てきました。「今度の休みは何をしようか?、次の給料の使用は?、彼女は元気だろうか?」等々。こんな事を考えながらもすっかり手だけは動いており、慣れとは恐いものだと感じています。慣れといえ、学生時代には朝起きが苦手で一限目の講義などほとんど出席したことのなかった自分が、生活のためではあるものの、毎日6時半には目をさまし、このごろでは目ざまし時計なしで起きている。しかも休日にさえも一度は目をさますのです。

今学生時代をふりかえてみると、あの厳しいカリキュラムをかわし、資金不足にもかかわらずよく遊んだものだと思います。その結果、留年という恐怖にもう数歩で直面するところでしたが、現在となっては良い思い出です。また私の場合は実家が豊橋市内であったため、「豊橋は雨が横から降るの?市街市地の夜がさみしい!女性のレベル云々」などと悪友から攻撃されましたが、今思えば住みやすい都市だったと思います。

会社生活に慣れてくるにしたがって初心を忘れがちになると思いますが、入社当時の新鮮なガッツをもち続けて今後も頑張っていきたいと思います。

近 況 報 告

昭和58年 エネルギー工学専攻修了

深田猶人

大学を離れてから早一ヶ月半ほどですが、私の近況を報告いたします。

就職先は中部瓦斯(株)で、都市ガスを製造し、豊橋・浜松・豊川・磐田の各地区へ都市ガスを供給している会社です。都市ガスをお使いの方々には毎度お世話になっております。

社会人としての生活は三月二十九日の入社式とこれに続く三河ハイツでの四泊五日の研修から始められました。内容は、社会人としての心構え、自己啓発などについての講習やレクリエーションなどです。そのあと配属先の発表があり、私は浜松製造所に配属となりました。

浜松製造所においても、製造工程の詳細にわたって約一週間の講習があり、そのあと製造・圧送・保全の各係で実習を行ないました。製造は文字通りガスを作るところでありまして、圧送では作ったガスを送り、保全では製造・圧送系の電気設備・機械設備を点検・整備するところであります。ガス会社といますと、化学的な雰囲気がありますが、実際は、ガスを作る反応炉やCOを減少させる変成炉を除けば、ボイラー・熱交換器などの熱プラントや、ブローワー・圧縮機・ポンプなどの機械設備に電気設備が加わるだけで、機械工学出身の私にとってはむしろ親しみが沸いてきます。

現在は、製造係で三直交替のオペレータとして勤務しています。電力会社と異なり、ガスの供給を止めることはめったにありませんが、プラントを止めることはたびたびあり、運転停止時と開始時の操作は面倒ですが、夜間の勤務は比較的楽です。社内の雰囲気ものんびりしていますが、仕事上、資格試験の重要性をひしひしと感じています。

会社へは現在自宅からマイカー通勤しています。中学卒業以来、寮生活・下宿生活を続けてきた私に

とって全く別環境であり、片道40分以上の通勤時間はやや苦痛にも感じられる今日このごろです。

さらにタフに

昭和58年 生産システム工学専攻修了
山本裕則

「迫り来る睡魔を追い払うためにトイレに立つと昇り来る朝陽が眼を射た。このような時刻に働らかねばならぬ身の不運を嘆き落涙する私の横を“おはよう”とって次の直の人が擦り抜けていった。(AM. 7:00)」「太陽は中天に差し掛ろうというのに飲会はまだ続いている。カラオケのマイクを握り声を張り上げ発汗する私に“お先に、おやすみ”と云ってひとりの人が席を立った。」

これは5月から始った日本鋼管昭和58年度新入社員教育の一環として行なわれている現場実習でのひとコマである。あまり知られていないが、私の入社した日本鋼管には製鉄、造船、重工の三部門がある。私が配属されたのは製鉄部門の京浜製鉄所製鋼部なのだが、ここの現場は他の高炉各社と同じく3直4交替で動いている。配属発表のときは、3交替の無い造船、重工のグループを横目で見ながら夜勤の辛さを思っ腹まで青くなったものだが、いざ3交替を始めてみると満員電車には乗らなくていいし、現場の人達は皆面白いで案外楽なものである。夜勤のときは流石に眠いが、これも夜勤手当が付くので学生時代の徹夜よりは、よっぽどいい。

それに比べて技術屋の方はたいへんである。勤務時間の名目は9:00～5:30なのだが、入社6年目、新婚ほやほやの某先輩などは毎日朝の7時頃から夜の12時頃まで事務所と現場を飛び回っており、あれで夫婦生活は大丈夫なのだろうかとこちらが余計な心配をする程である。これというのも当節の鉄鋼不況が原因で、会社にとっても技術者にとっても原価の低減や製品の高付加価値化が今まで以上に重要な問題になってきたからである。

「奥さん文句を云いませんか？」との私の無知な質問に「忙しく働いているときの貴方がいちばん好きよ、とアレは云うんだよ」とニクイ返答。私にもそういう言葉を掛けてくれる女性は現われないものだろうか、悶々としている今日此の頃である。

鉄鋼会社への就職を考えている後輩諸君、夜勤や残業に耐えられるタフネスの養成と、優しい言葉を

掛けてくれる女性の獲得を学生時代の急務とすることを強くお勧めする。

プロ!!努力あるのみ

昭和58年 生産システム工学専攻修了
青木 晃

早いもので天伯の地を離れて2ヶ月経ちました。今頃は雲雀が舞い、キャンパスには新入生が溢れ、例年の如く食堂に長い列ができていることでしょう。私はこの4月、三菱重工業株式会社に入社しました。現在は神戸造船所・原子力設計部に配属されております。この1年間は見習社員として、実務に携わりながらみっちり扱われることでしょう。

私の大学時代の専門は金属材料関係でしたが、社会に出ると全然関係のない原子力発電プラントの設計の仕事が与えられました。よく、学校時代の仕事は社会に出てはやらせてもらえないと言われておりますが、私の場合も全く例外に漏れませんでした。今は、白紙の状態新しい専門を作るべく努力している状態です。

社会人となって感じているのは、所謂“プロ意識”です。我々には失敗は許されません。甘えなどない世界なのです。学生時代なら、失敗を犯しても謝れば良かったのですが、今は失敗をしないように、例えしたとしても処置を誤まらないようにしなければなりません。とは言え、失敗を恐れず行動しなければならぬのが新人の私達の役目でもあるのですが。

しかし、社会という所は、そんなに厳しい面ばかりあるわけでもありません。会社の上司、先輩、同僚との交わりを通しての新しい人間関係の形成もあります。私自身も早速、学生時代、細々とやっていたラグビーを会社でも始め、週1回の割合で仕事の許す限り汗を流しております。それに、毎月必ず現金収入が入り、(何故か早々となくなってしまうですが)休日には結構羽根を伸ばしている次第です。

最後に、人生の新しいスタートの1年目である今年を将来の自分の飛躍の足掛りと出来るよう精一杯努力し、豊橋技科大の名前を天下に轟かせるよう頑張りたいと思っています。ただ一言、“努力あるのみ”です。

(昭和58年5月末日)

—私の近況報告—

日本電気 二工(明) 基礎技術部
昭和58年 電気・電子工学専攻修了
佐々木修三

卒業してから早3か月、皆さんいかがお過ごしでしょうか。私は四月に入社して以来2か月間の実習を終了し、六月一日より正式に配属が決定したのですが、その配属先がなんと2年前の夏に2か月間、基礎実務講習でお世話になった玉川事業場の基礎技術部でした。配属面接の時の話しても部長が私を望んで下さっているとの事だったので、日本電気に入社してから常々気になっていた、2年前の評価が合格点であったことにほっと胸を撫でおろすと同時に、顔見知りの方々が多くおられるので、他の新入社員よりも幾分リラックスして仕事ができるような気がしていました。

しかしそれもつかの間、配属先へ行ったその日に部長より山形日本電気の鶴岡工場へ、3か月程出張して来るようにとの申し渡しがありました。部長のお話しでは、装置、設備両面で鶴岡の方が整っているので、向うで短期間に仕事を覚えて来てもらいたいとの主旨だという事ですが、私にとっては寝耳に水、ただあ然として聞いているだけでした。

そんなわけで、現在私は直属上司の主任他3名の内の1人として六月十三日より鶴岡工場に出張となり、こちらで寮生活をしながら2~3週間おきに2日程、玉川に顔を見せに帰るといった生活をしています。今では鶴岡にもある程度なじんで来ましたが、最初の一週間程は、見知らぬ土地に見知らぬ人々、おまけに同じNECながら、職場の雰囲気までが異っており、まだ仕事らしい仕事もしていないにもかかわらず、一日を終えるとぐったり疲れているという毎日でした。

しかし泣き事を言っても誰も相手にはしてくれません。気分を一新し、若さを武器として、自ずから変化を望み且つ自ずから変化していく精神を忘れてはいけないと思います。そして、来年度入社して来るであろう後輩に対して恥ずかしくない仕事をしていたいと考える今日このごろです。

以上

六月二十六日、鶴岡行夜行車中にて、

なぜか和歌山

日本放送協会 和歌山放送局
昭和58年 電気・電子工学専攻修了
森山繁樹

卒業して2ヶ月間は、東京での研修生活でした。研修は、ほとんどが講義形式で、学生時代と違うのは、全員ネクタイをしめていることぐらいです。入社直後は、緊張し、シャキッとしていましたが、日が経つにつれ慣れてくると、やはり“春眠暁を覚えず”で、講義中、ウトウトしたこともしばしばでした。ただ、一週間に一度は、「講義の理解度を知る」という名目で、試験らしきものがあり、これには少し閉口しました。

研修後、何処(北は北海道から南は沖縄まで)へとばされるか、その通知が、5月の終わりにありました。一人ずつ別室に呼ばれ、配属先を言い渡されます。ニコニコして帰ってきた奴もいれば、ガックリうなだれて帰ってきた奴もいました。私の場合、「君は、和歌山へ行ってもらいます。頑張ってください。」あっけないものです。この一言で、今、私は和歌山に住んでいます。大学時代、和歌山出身の友人が、数人いましたが、よほど和歌山に縁があるのだなと思いました。

放送局の仕事は、個人のちょっとしたミスでも、そのまま放送されてしまうと、多くの人達に視られたり、聴かれたりするわけですから、やはり、緊張します。今は、簡単なテレビ画面の切換やFMの音楽番組でテープを流したりするぐらいで、まだ、大きな失敗はやっていませんが、そのうちやるんじゃないかと心配しています。また、和歌山県は、山岳地帯が多く、いたるところに、テレビやラジオの中継所があります。そこが故障した場合には、すぐに山に登り、修理しなければなりません。重い機器を背負って、片手にカメラを握り、頑張っています。

先日は、参議院選挙で、ある候補者の事務所の生中継に行きました。当選が決まると、事務所の中はいきなり祭りになります。カメラのフラッシュの中で、酒が誰かまわす配られます。私も、仕事でなかったら、めいっばい飲めたんですが……。

では、近況報告まで。みなさん頑張ってください。

少し不安、アメリカ

昭和58年 情報工学専攻修了
窪田清仁

社会人になって変わったこと一朝起きるのが早くなった、酒を飲む機会が増えた、まわりに女性がいる、そして読書量が増えたこと。丁度2ヶ月で徳川家康を全巻読むことができた。なつかしい岡崎城、吉田城という言葉がでてきて、時々豊橋のことを思い出す。

日本電気に入社したその日は、TV朝日やNHKなどのTVカメラを意識して緊張した。その後すぐに、福岡で販売実習を行なった。研修はさらに続いたけれども、本音を言えば退屈であった。やっと6月1日に配属が決まり、パソコン事業部(ソフト担当)に勤務することになった。自分の作ったプログラムがPCという名前と共に売られていくと思うと恐くなる。今はCP/MとかMS-DOSといったパソコンのOSを勉強しながら勝手にマシンを扱っている。大学時代にもう少しパソコンを勉強すれば良かったと今さらながら後悔している。また課長からは、いつ米国へ行ってもいいように英会話を勉強しなさいと言われていた。そういうわけで、そろそろ英会話を始めようと思っている。

7月27日、ついに米国へ行くことになった。もちろん1人で。向こうに行けば日本人もいるのでどうにかなるけど、やはり心配である。海外営業に配属になった人でも1年は日本で勉強してやっと海外へ行くというのに。たぶん新入社員の中で一番早く海外へ行くのでないかと思う。とにかく2、3年はファームで基礎をみっちり鍛え、その後一軍でバリバリやりたいと思っている。でもみんな忙しそうだから、そんな悠長なことは言えないだろうな……。

door to door—研修の日々

昭和58年 情報工学専攻修了
杉山 明

3月末に豊橋を去り、もう3ヶ月が過ぎてしまいました。私はこの4月、キャノン(株)に入社しました。皆さんはキャノンと聞くと、カメラメーカーと思われるのですが、現在は、その主力がカメラから映

像・電子事務機(複写機、ファクシミリ、ワープロ、etc.)に移っています。

キャノンでは配属までの実習として、工場実習、販売実習がそれぞれ1ヶ月半程あります。私は工場実習では、茨城県にある取手工場で電子タイプライタに組み込まれる基板の検査を行ないました。工場が茨城だったので地元の私は楽しく過ごしましたが、一緒に実習をやった連中は、言葉がわからんとぼやいていました。現在は販売実習中で、キャノン営研という直販会社の渋谷営業所で複写機を売っています。カタログを一杯詰込んだ鞆を片手に、自分の与えられたテリトリーにある会社を「おはようございます。私、キャノンから参りました杉山と申しますが、本日は複写機の御紹介に参りました。」とdoor to doorでセールスをしています。セールスとは言っても、ほとんどが「複写機、間に合ってるよ」と断られます。ほんとにセールスは厳しいですね。

4月に社会人として始めて給料を貰ったわけですが、銀行振込の為、実際に受け取ったのは明細だけで、特別な感慨はありませんでした。しかし今では、給料日が待ち遠しくなっています。社会人になって変わったことと言えば、月並みですが、朝が早い、通勤ラッシュ、外で酒を飲むことが多くなったという所で、気分的にはあまり変わっていないような気がします。これは実習中の為かもしれませんが。とにかく社会人は、健康一番、頑張っていきたいと思いません。

「社会人になって」

村田製作所勤務

昭和58年 物質工学専攻修了
齋藤裕美

4月1日に入社して以来、4ヶ月過ぎようとしている。今、初めて会社の門をくぐった時の緊張感が残っているだろうか?と自分に問いかけてみると、ずい分、会社に慣れてしまったんだなあと思う。

入社式の日、76人の新入社員の中で女子は私一人だけであり、期待よりも不安の方が大きかったのを覚えている。一ヶ月間の八日市工場での実習を終え本社でさらに二ヶ月間の研修を終えて、晴れて正社員として認められた今、もう一度初心に帰らなくてはいけなのではないか?と思う。入社したら、あれもやろう、これもやろうと思うことが沢山あったのに、三ヶ月間は心に余裕がないからという甘えか

ら、時間の流れに身をまかせてしまったように思う。もう一度、目標を立て直して、初心に戻ってがんばろうと思う。

ところで、私の仕事は、第5開発部の分析センターという部門で、村田及び関連会社等からの依頼を受けて、機器分析を行なう業務を担当している。大学で学んだことがずい分役に立ったという点では、恵まれた配属であったと思っている。しかし、会社で一番大事だと思うのは人間関係ではないだろうか。同じ職場にパートのおばさんが数人いて、その中の一人に手伝ってもらった仕事があるのであるが、とにかく気を使う。大学時代、わがまま放りだしたし

わ寄せが来たのだと思っているが…。ようやくこの頃波長が合って来て、仕事がずい分スムーズに進むようになった。

ある人の話しの中で、「会社のために働くと考えるな！すべて自分のためなのだから」という言葉があった。つまり会社のためという気持ちでいると、ゆきづまった時自分が苦しくなるが、自分のためなら多少の我まんやふんばりがきくからだと思う。これから先、何年会社に勤められるか想像もつかないが、常に自分を見失わないで、マイペースで背伸びをしないでがんばりたい。時には、ひと休みしたりして……。

学内近況報告

—エネルギー工学系—

先輩諸兄の中にも、すでに御存知の方がいると思いますが、今年の5月30日に、本学の学内共同教育施設の一つである自然エネルギー実験棟の学内披露が行なわれ、オープンしました。この自然エネルギー実験棟は、学内外の研究者が共同して、特に太陽・風力及びそれらの複合エネルギーを中心に、地域の特徴を活用した、自然エネルギー利用技術の開発・評価を行なうことを目指して、建設されたものです。諸兄の多くは、技科大のキャンパスに初めて来られた時の、あの凄まじい程の強風の印象と、意外にお天気が良い日が多かったことを記憶されていて、「なるほど。」と思われることでしょう。

現在、この実験棟には、エネルギー、電気・電子、建設工学の各関連研究室が利用しています。今回、トピックスの一つとして、我エネルギー工学系関連事項について御紹介したいと思います。

1. 太陽熱利用冷暖房実験設備

前にもすこし触れましたが、本学の位置する東三河地域は、他の地域と比べ、年間日照時間が長く、太陽エネルギーを十分に利用することが可能です。その太陽エネルギーをソーラコレクター、蓄熱水槽、

吸収式冷凍機等を有する太陽熱利用冷暖房実験設備によって、所望のエネルギーに変換すると同時に、その性能特性実験・研究を行っています。

2. 太陽熱土中蓄熱実験装置

本学キャンパス周辺に数多くの農業用ビニールハウスが目につくことが物語るように、東三河地域は全国でも有数の温室農業が盛んな地域です。その農業用温室に利用するため、太陽熱の様な低温度エネルギー利用技術の一つとして、熱風土中吹込方式の太陽熱土中蓄熱実験装置の研究を行なっています。

3. 大気乱流シュミレーション風洞・流れ可視化用低乱風洞

現在、省エネルギー対策の一つとして、風力エネルギーの利用技術の研究・開発が盛んですが、そのエネルギー媒体である大気の流れ（乱流）についてはまだまだ未知の部分があり、その現象は今だ、明らかにされていません。現在、その乱流現象を解明するため、全長16m、最大風速22%、大気乱流発生装置付の大気乱流シュミレーション風洞と、全長12m、最大風速10%の流れ可視化用低乱風洞があり、乱流現象の研究がなされています。

以上、エネルギー工学系関連事項だけを記しましたが、本学へ立ち寄る機会がありましたら、一度足を運ばれて自分の目で確かめられることを望みます。

—生産システム工学系—

(材料工学講座)

高技術機械製品の根幹をなす金属材料の製造法と高性能化、新材料の開発を目的とするつぎの3講座から構成されている。

○製錬工学研究室

本研究室は、伊藤教授、川上助教授が担当し、主に、鉄鋼製錬プロセスに関する基礎的研究を行っている。数gの溶解に用いる浮揚溶解装置から30kg容量の誘導溶解炉までの各種合金溶解装置、および各種合金成分の分析装置を備えてある。研究テーマは、合金成分の固液分配平衡、溶鋼の熱力学的測定および水モデルや溶鉄を用いた気液分散相の形状や構造に関する研究や吹込まれたガス、粉末と溶鋼との間の物質移動速度論的研究である。これらを通し、新しい製鋼法の可能性を追求している。この他、耐熱合金の高温腐食に関する研究も行っている。

○機械材料研究室

本研究室は、湯川教授、森永助教授、村田助手を中心に、マイクロおよびマクロの組織制御による機械材料の高性能化を目的として、特殊鋼、耐熱、耐食合金、共晶複合材料などの開発と関連する基礎研究を行っている。現在の主な研究テーマは、耐熱合金の組織解析と合金設計、単結晶耐熱合金、耐熱共晶複合材料および強靱超硬合金の開発、Cr-Ni-X系合金の状態図と組織解析などである。これらの研究は多目的一方向凝固炉、トリアーク炉、各種物性測定装置、4軸X線回折計、クリープラプチャー試験機などを用いて進められている。

○铸造材料研究室

本研究室は、小林教授、池田助教授、新家助手が担当しており、金属材料の铸造加工熱処理ならびに強度学と広い範囲にわたり研究を行っている。主な研究テーマは、(1)鑄鉄の強靱化に関する研究、(2)航空機用材料の強度と破壊、(3)複合材料、Ti合金、原子炉圧力容器用鋼板の破壊に関する研究、(4)新しい凝固法の開発とその凝固理論等である。実験設備としては、50kgm及10kgm計装化シャルピー衝撃試験機、疲労亀裂発生機など最新の試験機、装置を備えている。

—電気・電子工学系—

電気電子工学専攻 福原裕明

修士2年次の夏休みも、もう半分過ぎてしまった。しかし、私にとって今年の夏休みはないようなものであり、研究や就職活動に時間をほとんど取られてしまっているのが現状である。先日、私は東京のある企業に会社訪問に行ってきた。今日、技術系、特に電気、情報工学系の学生の就職率は、良いようであるが、私の訪問した企業は大学の技術系の学生は他の企業と比較するとあまり採用しないらしく、そのため企業側の方で採用のしかたをだんだん慎重にかつ厳しくしている傾向がある感じを受けた。

さて、話は変わって私は、電子デバイス大講座の化合物半導体グループの一員で、GaPの液相成長に関する研究を行なっている。現在は、通常のスライドボードを用いた除却法の装置でリンの蒸電圧を制御して高温のためGaPの基板からリンが分解して抜け出すのを抑えたと併に、結晶のストイキオメトリを制御して、成長結晶の改善を行なう目的で実験に励んでいる。リン蒸気圧の制御は、PH₃、すなわち、毒ガスであるフォスフィンガスを用いており、非常に注意しながら実験している。このフォスフィンガスは、約1000PPmの濃度のもので、そのまま排気しては危険であるので、排ガス燃焼装置を製作しガスを完全燃焼させてから排気する方法を採用している。また、排気路にはガス検知器を取付けるなど安全に非常に気を配っている。そのために実験は、準備段階で時間がかかり、最近、やっと実験を開始した状態である。また、排ガス燃焼装置には、火の監視装置が付いていないので、火が消えないように見張らなければならないため、2人で交代で見張りをしており、決して、1人で実験を進めたりしないようにしている。そして、今後は、1000PPmのフォスフィンではストイキオメトリの制御は難しいので、赤リンを用いて直接、基板や過飽和溶液にリン圧を加えられるように、ボートなどの改良を考えている。

また、デバイス大講座では、4月の下旬から6月の上旬まで、2人のメキシコ人の研究生を受け入れてトランジスタやOPアンプのプロセスの実習を行なった。さらに8月に、例年どうりプレーナ・トランジスタのプロセス講習会が開催され、学生にとつ

て一段と忙しくなるしだいである。

以上が、私の近況報告であるが、時間的に残り少なくなってきた学生時代を皆、必死で過ごしている感じである。

—情報工学系—

志水文彦

先輩諸氏が、雲雀の丘から広い世界に巣立たれてずいぶんになる。三期生の自分が、昨年までは他人事にしか思えなかった卒業後の進路について、先輩方と同じように、今悩まされているところである。

さて、新構想として開学した我技科大もこの春で六期生を迎え、良い意味でも悪い意味でも大学としての形を備えてきた。先輩方がいっしょにいた頃には、どこからか必ず工事やダンプの行き交う音がしていたものだが、今の研究室には雀やひばりの囀りのほかは、時おり学生のバイクや車の排気音が聞こえるばかりだ。聞くところによると、残っている大きな建造物は講堂とプールくらいだそうである。

学生気質の方もかなり出来上がってきたのではなからうか。まだ大学の定員も建物も完成されていなかった頃、新しい大学とばかりにいろいろ考えていた自分は、自分が何期生であるのかもわからない先輩や、試験前に、先輩から受け継がれてもうずいぶん溜っているテスト資料などを、売店や図書館でコピーする学生の姿をみると、ちょっとがっかりするようなこともあるが、それはそれでいいのかもしれない。しかしその反面、つい先日また自殺者がでってしまった。エネルギーM1の学生であるが、同じ大学の学生としては本当に残念であり、また人ごとでなくショックを受けている。大学に責任を負わずつもりはないが、一年半の間に三人もの自殺者を出したこの大学は、自分をも含めて何か考えなければならないことがあるのではないだろうか。

ところでもう一つ大きなトピックといえば、やはり大学院の博士課程設置についてであろう。この秋の国への概算要求が通れば来春に開設とのことだが、博士課程というと国立大学の工学部ではまだ十箇所くらいしかなく、昔からの大学に先んじて若しこれが実現すれば、諸先輩方の社会での御活躍とともに、技科大の存在評価について大きな意味をもつことになるであろう。技科大もdoctorを世に送

り、またそろそろ母校の発展のため大学に残る人材があってもいいものである。現に電気電子、情報系では、来年度の博士課程進学希望者が今のところ十人くらいいるようである。ただ、それでも技科大は技科大であって欲しいと思う。今までの大学にないユニークさと、創造性・実践性を大切に考えるdoctorであれば幸いである。

あーあ、それにしても暑い。早くプールをつくってくれていれば、すこしは涼むこともできたかもしれないと考えている今日此頃である。

—建設工学系—

「留学生紹介」

建設工学系でも留学生の方が入学され、勉学に励んでおられます。本文では、徐元一さん、バンバン・セティオコさんの本学についての感想を紹介します。
○徐元一（ジョモトイチ）

昭和五十七年の編入試験、初めて外国学生が日本高専の学生と一諸に受けます。幸いに合格しました。これからN年の勉強をします。

学校に入った時、びっくりしました。設備と環境は一流と思います。

土質研究室の先輩野瀬さん、南谷さん、渡辺さんと市川さん、岡林さんから三ヶ月間の日本語練習、いまの授業は70%以上わかります。本当に新切な先輩です。

時々衛生研の稲田さんからいろいろなお世話、例えば下宿とか日本の生活とか教えていただきました。先生たちは詳しくて授業をわかるまで本当に感心します。

特に指導教官栗林先生が学校の生活から一般の生活までなんでも引き受けます。お父さんみたいです。授業がわからない時、他の研究室の先輩も新切に教えてくださいます。

事務室の清水さんと安藤さんも学校のことを詳しく教えてくれます。

外国のかんじと思いません。

○バンバン・セティオコさん

建設工学系修士1年のバンバン・セティオコです。私は、去年インドネシアから日本に来て、名古屋大学で日本語の勉強をし、この春からこの大学で、Low Cost Housing For Low Income Peopleにつ

いて勉強しています。指導教官は、紺野先生です。豊橋に来てから、桜やしょうぶを見に行ったり、新城や二川の友達の家、豊橋まつり、浜松のたこあげ祭りなどに行ったりして楽しく休日を過ごしています。しかし、休日でも学校へ来ている学生がいることには驚いています。

スポーツはテニスが好きですが、4月の末に建設系のソフトボール大会があり、はじめてソフトボールをしました。はじめはルールもわかりませんでしたが、だんだんおもしろくなり、その後のコンパともとても楽しかったです。夜は9時過ぎに交流会館に帰り、友達と話をしたり、テレビ(好きなテレビ番組…なるほどザ・ワールド、プロポーズ大作戦etc)をみたりしています。これからも、よろしくお願います。

—女性の立場から—

技科大に入学してみた

本学に入学して一番最初に感じた事は、とんでもない所へ入学してしまった、でした。どこを見ても男、男、男。覚悟はしていましたが、実際に技科大生になってみると、この後何年間もここでやっていたらどうかという不安が湧いてきました。学校生活はもちろんのこと、学業の面においても、男子学生に勝るとも劣らずやることができるかという不安でした。それを実感として感じたのは、概論の講義を受けた時でした。専門用語が次々と飛び出してきて全くわからないまま、ただ漠然とした感じで一学期が過ぎてしまいました。入学時にも諸先生方に言われたのですが、本腰を入れて自ら中身の濃い勉強をしていかなければと、つくづく感じています。

ところでこの学校の雰囲気はと言うと、私たちにあって何となく異和感を感じさせるものが漂っています。慣れるまでに随分時間もかかりました。工学系の学校の特徴なのかもしれませんが、それでも閉鎖的すぎる気がします。もっと自由な創造性あふれる雰囲気が必要だと思いますが…。

まだ技科大生となって日が浅く、大学の一部しか知りませんが、クラブにも入り、いろいろな人と知り合って、やっと技科大生の仲間入りができたと思っています。女の子だからという目で甘く見られる事もしばしばあり、また反対に甘えさせてもら

うこともありました。しかしその甘えに慣れてしまいう事がないよう、まだまだ先は長いですが、頑張っていきたいと思っています。
一年女子

東海地区国立大学 体育大会の反省

総部会体育局長 鈴木孝佳

我校は、どの種目を見ても4位までに入っていない。5位までに入っている、同順校が3校もありいずれも、得点は低い。その結果総合順位8位という成績になってしまった。これは、大会日が、我校だけ試験が終わってから2日後ということも影響しているかもしれない。しかし、大半の部が日頃からあまり活発に活動していないという事もあるのでは…。

大会後の反省会で、他校の方にクラブ活動の様子を聞いてみると、日頃活動をする時間があまり作れないため、部員全員が集まるのは週2回であるという事がわかった。みなさんは、技科大だけが活動に費やす時間が作れないと思っているようですが、この通り、国立大学である以上、どの大学も条件は同じなんです。それに来年は、大会日が、7月7・8日ですので、夏休みに入ってから日頃の仕上げをする時間が約1週間あります。日頃から、部員全員が同じ目標に向って練習すれば、必ずそこに今までに技科大になかった物が生まれると私は信じます。どうかみなさん、クラブ活動というものの意義をもう一度考えてみてはどうですか。勝ち負けは二の次です。スポーツには、勝敗よりもっとすばらしいものがあると思いませんか。

第32回 東海地区国立大学体育大会成績一覽

種目 \ 順位	優 勝	準優勝	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
陸 上 競 技	愛教大	三重大	岐 大	名 大	静 大	名工大	豊技大	浜医大
硬 式 庭 球	静 大	名工大	(岐 大	浜医大)	(豊技大	愛教大	三重大	名 大)
バスケットボール	静 大	岐 大	名 大	愛教大	三重大	浜医大	名工大	豊技大
バレーボール	名 大	愛教大	三重大	岐 大	静 大	豊技大	名工大	浜医大
卓 球	愛教大	三重大	名 大	名工大	岐 大	静 大	豊技大	浜医大
バドミントン	岐 大	名 大	名工大	静 大	三重大	豊技大	浜医大	愛教大
サ ッ カ ー	静 大	三重大	名 大	愛教大	岐 大	豊技大	浜医大	名工大
柔 道	名 大	静 大	(愛教大	三重大)	(岐 大	豊技大)	名工大	
剣 道	静 大	名工大	岐 大	愛教大	(三重大	名 大)	(豊技大	浜医大)
空 手 道	名 大	浜医大	岐 大	愛教大	(静 大	豊技大	三重大	名工大)
硬 式 野 球	(中	止)				
軟 式 庭 球	(中	止)				
総 合	静 大	名 大	愛教大	岐 大	三重大	名工大	浜医大	豊技大

注) () は同順位

昭和57年度決算報告

(昭和57年 1 月～昭和58年 3 月)

収 入	円	
会 費	545名	2,725,000
利 息		14,812
計		2,739,812
支 出		
会報編集印刷発送		455,850
事務用品		14,195
入会案内手続諸掛		12,190
通信費		1,660
その他		1,200
計		485,095
差引残高		2,254,717

— 同窓会員現況報告 —

昭和58年4月1日現在

所 属 卒業年次	エネルギー工学課程	生産システム工学課程	電気・電子工学課程	情報工学課程	物質工学課程	建設工学課程	計
	エネルギー工学専攻	生産システム工学専攻	電気・電子工学専攻	情報工学専攻	物質工学専攻	建設工学専攻	
昭和55年3月卒業	3	6(1)	8	8	10(1)	6(1)	41(3)
昭和56年3月卒業	6	10	14	12	16	5	63
昭和57年3月修了	33	34	28	24	27	34	180
昭和57年3月卒業	10	14	15	13	8	15	75
昭和58年3月修了	35	27	31	22	17	28	160
昭和58年3月卒業	16	10	14	8	17	16	81
計	103	101(1)	110	87	95(1)	104(1)	600(3)

カッコ内は死亡者を内数で示す。

— 同窓会役員名簿 —

会 長	鈴木寛太郎 (建設, 修士1期)	(編集担当)	名倉道長 (情報, 修士1期)
副会長	鈴木秀智 (情報, ")		野田俊治 (生産, ")
	八木孝司 (生産, ")		窪田清仁 (情報, 修士2期)
理 事			小林由委 (建設, ")
(会計担当)	河本 映 (電気・電子, ")	(会員担当)	八木克典 (電気・電子, 修士1期)
	古内正美 (エネルギー, 修士2期)		西澤 一 (電気・電子, 修士2期)
(庶務担当)	柳田秀記 (エネルギー, 修士1期)		市川正寿 (物質, ")
	小西正則 (エネルギー, ")	監 事	奥山 徹 (物質, 修士1期)
	小林俊仁 (物質, ")		中田好彦 (情報, 修士2期)
	戸田敏行 (建設, ")		
	渡辺 学 (生産, 修士2期)		

編 集 後 記

本号はこの秋開かれる総会の呼びかけを行なうため去年より早く作成を行ないました。そのため新卒者の名簿作成が間に合わなくなり、また各課程により研修期間が3ヶ月・6ヶ月・1年間とまちまちのため、役員会においてこれからは名簿発行については一年遅れに発行することに決定しました。その点を御了承下さい。

今秋の総会(技科大祭)には、日ごろ大学へ見える方はもちろん、遠方の方もぜひ大学へ顔を見せて行事に参加して下さい。

末筆ながら、御多忙中にもかかわらず執筆下さった方々、編集に全面的に御協力下さった皆様に厚く御礼申し上げます。